

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名	岡山大学
構想名称	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム
相手大学等名 (国名)	吉林大学（中華人民共和国）、成均館大学校（大韓民国）

【構想の目的及び概要】

【背景】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校は、これまで部分的にはあるがコンソーシアム協定を締結し、ダブルディグリー制度、共通講義、短期留学（単位互換）制度など、先進的でユニークな交流の実績と経験を積んできた。吉林大学は、歴史的に日本文化との接触が深く、日本語教育、日本研究の層が厚い。また、地理的、歴史的に韓国とのネットワークも緊密である。また、成均館大学校は高麗の成均館を母体とした韓国最古の大学で、韓国文化と思想を代表する大学であると同時に、現代韓国を研究する上での拠点校でもある。岡山大学は、アジア共通の課題である省エネ・再生エネルギーの活用、循環型社会の形成、有機物質の研究、臓器移植、癌遺伝子の研究などで成果を上げているとともに、東アジア国際協力・教育研究センターを中心に、東アジアの政治、経済、文化、価値観の研究に取り組んでいる。

【目的】

この総合大学3校が、既に確立された共同教育システムの実績をもとに、相互を理解し、共通の価値観を持って、協力し課題を克服できる次世代の中核人材育成(CHRD)を実施する。具体的には、国際的な視野を持ちながら、同時に地域の文化に精通し、そして深い伝統的な教養をもったアジアクラット（アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者）、地域医療をリードする医療人、技術開発、生産、販売のすべて面で3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補、また環境、エネルギー、循環型社会の構築など、現代社会が抱える問題でリーダーシップのとれる人材の輩出を目指す。

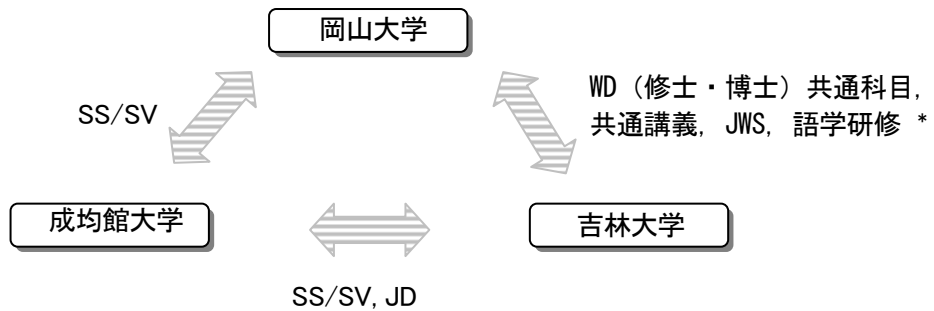
【概要】

本プログラムでは、つぎのプログラムを実現する：(1)3国が共通で抱える課題等を学習素材としたサマーセミナーを開催する。(2)3大学持ち回りの年次国際合同会議の一環として3校の学生が共通の場で講義を受け討論（共同ワークショップ）を行うと同時に、個別チュートリアルを実施することにより、異文化理解、コミュニケーション能力を向上させる。(3)共通学務委員会（スタッフ・ミーティング）を設置し、教育ガイドライン、単位相互認定制度、ピアレビューを導入して、教育プログラムの可視化と高い互換性を確立する。(4)外部専門家による「インターナショナル・レビュー」を立ち上げて実施状況を検証する。(5)定期的に開催するリージョナル・カンファレンス、地域および企業と連携して行うフィールドセミナー、インターンシップを通じ、課題解決型教育を実践する。

岡山大学・吉林大学間では、(1)博士課程前期・後期ダブルディグリー制度、(2)短期留学（単位互換）制度、(3)共通科目の実施、を実現している。さらに、吉林大学において中国語の、また岡山大学言語教育センターにおいて日本語の語学研修を実施している。岡山大学・成均館大学校間では、短期留学と単位認定制度がある。また、吉林大学・成均館大学校間では、ジョイントディグリー、短期留学が実施されている。本プログラムは、こうした既存の制度と経験の蓄積の上に実施するものである。また、岡山大学が既に実施している「アゴラ」（地域社会、産業界とのコミュニケーションと共同事業の場）をモデルに、リージョナル・カンファレンス、フィールドセミナーを実施し、地域に必要な人材を育成する。同時に、各地域が直面する課題を実践的に学ぶことによって、課題解決能力を育成し、将来において地域の中核となり、地域相互の交流促進できる人材を育成する。さらに、卒業・修了後の就職・研究フォローアップ・システムを立ち上げて、育成した人材が地域で活躍できるようサポートする。

【構想の概念図】

図1 既に実施されているトライアングル交流事業と共通教育モデル



* 岡山大学・吉林大学間で既に実施されているプログラム・パッケージをベースに、3校間で共通教育モデルを構築する。

図2 包括的共通教育

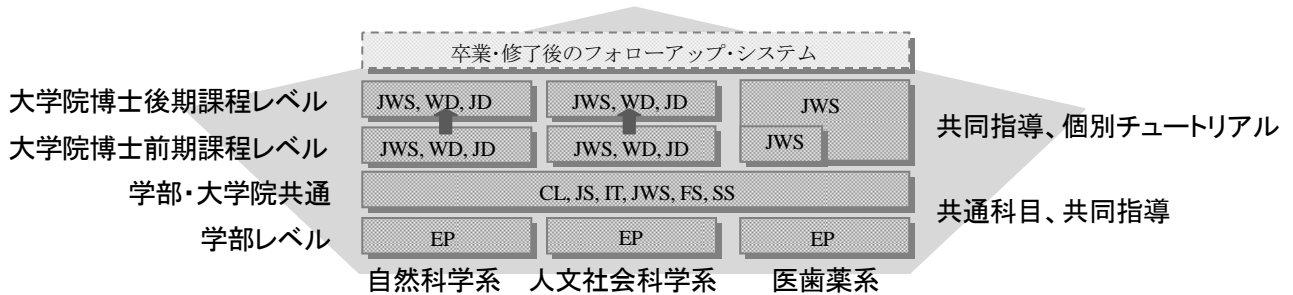
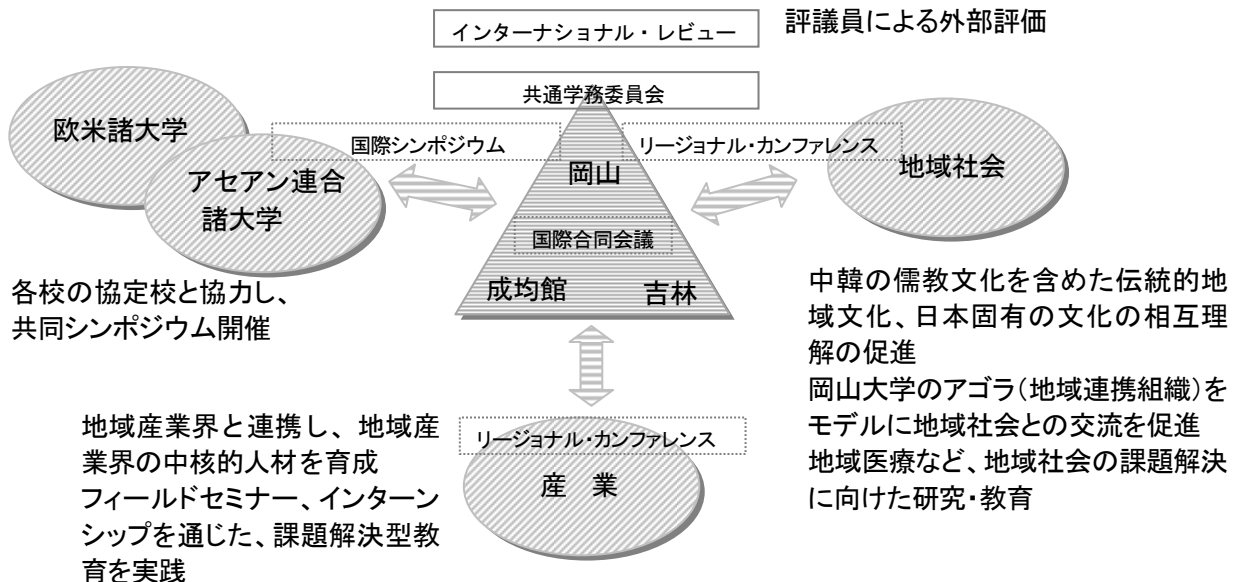


図3 次世代地域中核人材育成概念図



SS/SV = 短期留学; WD = ダブルディグリー教育 (並行して2校で学位取得); JD = ジョイントディグリー教育 (複数校が共同で学位授与); JWS = 共同ワークショップ; JS = ジョイントセミナー; CL = 共通講義; IT = 個別チュートリアル; FS = フィールドセミナー; EP = 交換留学プログラム; SS = サマースクール

平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	岡山大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム
<p>〔評価コメント〕</p> <p>東アジアの共通善という重要かつ新しい概念を打ち出し、それを実現するための中核人材を育成するという目的は高く評価できる。育成する人物像も明確にされ、東アジアにおける新たな人材養成ニーズに応えるものとなっている。</p> <p>また、東アジアの共通善は、これまでの欧米型学術・教育の限界を踏まえ、産業界・地域社会からのニーズも踏まえて構築した理念であることから、地域社会・産業との連携も視野に入れており、地域の社会経済的な発展に貢献することが期待できる。</p> <p>一方で、それぞれの事業が孤立する傾向があり、全体として人材育成のための効果が半減する恐れがあることや、学生を長期にわたってこの取り組みに参加させようとするインセンティブが十分ではないことが懸念されるため、さらなる検討が望まれる。</p>	